

# 令和6年度 履修証明プログラム

(現役教師対象)

## オンデマンドと 対面で学ぶ ことばの教育の 最前線

こんな方を募集しています!

- ✓ 現職の小・中・高校教員
- ✓ 英語・国語の教科指導力を高めたい方
- ✓ 大学教員による、免許状更新講習に代わる講義を受講したい方
- ✓ 教育能力全般を高め、現場における実践力の向上を目指したい方

広島県公立大学法人 県立広島大学  
地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース

[所在地] 広島県広島市南区宇品東1-1-71  
[メール] kouza@pu-hiroshima.ac.jp  
[電話] 082-251-9534



詳細はこちら

## 【本プログラムについて】

### 《目的》

①国語科教育内容学（日本語学、日本近代文学、古典文学・書誌学、中国古代思想）、②言語学（認知言語学・社会言語学）、③日本語教育学、④英語科教育学（英語教育）・同内容学（英語学、米文学）、⑤比較教育学、⑥教育心理学（認知心理学）の潮流を学び、現場における実践力の向上を目指します。

### 《内容》

上記6分野について、オンデマンド学修、レポート執筆、担当教員とのディスカッションを繰り返し受講していただきます。

### 《修了後に身につく能力》

英語・国語の教科指導力、日本語教育力、教育能力全般

## 募 集 要 項

履修資格	現職の小・中・高校教員であること。	募集定員	5名								
開催場所	県立広島大学 広島キャンパス（広島市南区宇品東1-1-71）※対面の場合										
受講料	24,600円	総時間数	60時間								
修了要件	全10本のレポートをすべて提出し、対面またはリアルタイムオンラインでのディスカッションにすべて参加していること。（修了後、履修証明書を交付する。単位の授与はなし。）										
プログラム 時間数等	<table border="1"><thead><tr><th>講義形態</th><th>時間数</th></tr></thead><tbody><tr><td>オンデマンド教材による学修</td><td>30時間</td></tr><tr><td>レポート作成</td><td>15時間</td></tr><tr><td>受講生のレポート等に基づく対面またはリアルタイムオンラインでのディスカッション</td><td>15時間</td></tr></tbody></table>			講義形態	時間数	オンデマンド教材による学修	30時間	レポート作成	15時間	受講生のレポート等に基づく対面またはリアルタイムオンラインでのディスカッション	15時間
講義形態	時間数										
オンデマンド教材による学修	30時間										
レポート作成	15時間										
受講生のレポート等に基づく対面またはリアルタイムオンラインでのディスカッション	15時間										
申込方法	<p>下記のQRコードまたはURLからプログラム内容および受講条件等を確認し、「申込フォーム」に入力してください。</p> <p><a href="https://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/rishu-shoumei/06hiroshima01.html">https://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/rishu-shoumei/06hiroshima01.html</a></p> <p>申込フォーム入力後、次の①～③の3点を郵送してください。</p> <p>①【<b>本学様式</b>】履修証明プログラム履修許可願 ②【<b>自由様式</b>】履歴書 ③受講資格を証明するもの（<u>在職証明書等/職員証の写し可</u>）</p> <p>必要書類の本学への到着をもって受講申し込みを受理します。申し込み後、メールで受講案内および振込案内をお送りします。パソコンからのメール（@pu-hiroshima.ac.jp）が受け取れるよう設定しておいてください。</p> <p>☆書類郵送先：県立広島大学地域連携センター宛 〒734-8558 広島市南区宇品東1-1-71</p> <p><b>☆申込期限：6月17日（月）当日消印有効</b></p> <p>※ご不明な点がございましたら地域連携センター（TEL.082-251-9534）までご連絡ください。 ※お申込にあたりご提供いただいた個人情報は、本講座の運営以外の目的には使用しません。</p>										



	対面orオンライン日時	担当教員	オンデマンド教材の内容
1	6月29日(土) 10:00～ 11:30	小川 俊輔 (日本語学)	<p><u>(1)児童・生徒の言語感覚を磨くための幾つかの小トピックー50音、動詞活用表、人称詞ー</u> この授業では、児童・生徒が日常的に触れている身の回りのことば（日本語）を対象に、言語感覚を磨くために役立つトピックを複数取り上げて解説します。「あ・か・さ・た・な」はなぜこの順なのか、中学校で習う現代語の動詞の活用表はもっと単純化できないのか、サザエさん一家が互いに家族を呼ぶ「呼びかけ語」の法則性とは？</p> <p><u>(2)言語景観研究ー他言語表記、フォントと書体、ピクトグラムなどー</u> 「言語景観」とは、道路標識、広告、看板、地名、店名表示など、公共空間における視覚情報のことを指します。「言語景観」は、国語科の探究学習のテーマとして幅広い層の児童・生徒が取り組みやすいテーマです。この授業では、まず、何が「言語景観」の研究対象となるかを概説し、続いて、広島県内の言語景観を調査した大学生による研究成果を紹介します。</p>
2	7月26日(金) 19:00～ 20:30	福田 涼 (日本近代文学)	<p><u>(1)谷川俊太郎「朝のリレー」が描く「世界」</u> 谷川俊太郎の詩「朝のリレー」（1968年）は中学国語の「定番教材」の一つであり、多くの中学生が、「連」や「対句」、「口語自由詩」といった概念・用語を、この詩から学んでいます。本講座では、こうした事項を踏まえつつも、この詩が発表された当時の世界情勢に注目しつつ、「地球を守る」「ぼくら」とは一体誰なのか、作品の精読を通して明らかにします。</p> <p><u>(2)教室で読む原民喜「夏の花」</u> アジア・太平洋戦争の終結から80年弱が経過した今日において、国語の授業で「戦争文学」を読むことの意義は、奈辺に見出せるのでしょうか。本講義では、原民喜の短篇「夏の花」（1947年）を分析対象に据えて、如上の問題について検討します。被爆体験を「表象」することの困難や不可能性や、作中の表現が当時の社会状況と切り結んでいた関係性、戦争体験の安易な「物語」化を拒絶する「小説」の倫理等について考察します。</p>
3	8月16日(金) 19:00～ 20:30	目黒 将史 (古典文学・書誌学)	<p><u>(1)〈平家物語〉「橋合戦」を読む</u> 〈平家物語〉は諸行無常の平家滅亡の物語であるという理解のみで〈平家物語〉を読んではならない。「橋合戦」は以前は教科書に採択されていたが、最近はずっと見かけなくなった。しかし、「橋合戦」は〈平家物語〉享受を向う上で恰好の章段であると言える。この授業では、古典探求の時間で、〈平家物語〉を教材に、どのように取り組むことができるのかを考える。主に諸本の比較、絵画資料の分析を通して、〈平家物語〉がいかに読まれていたのかをみていく。</p> <p><u>(2)〈平家物語〉「能登殿最期」を読む</u> 二回目は、「能登殿最期」を扱う。「能登殿最期」も最近の教科書には採用されていない。しかし、この章段は瀬戸内の地域でこそ教える教材であると言える。一回目に加えて、広島で〈平家物語〉を読むというのはどういうことなのか、地域における物語とは何なのかの視点を加える。</p>
4	8月31日(土) 10:00～ 11:30	工藤 卓司 (中国古代思想)	<p><u>(1)儒教について</u> この授業では、日本文化とも密接な関係をもつ儒教について、宗教や倫理、政治といった様々な側面から考察を加えます。また、どのように儒教が生まれ、どのように発展していったのかを、歴史的に確認し、日本への影響などについてもみていくことにします。また、儒教の祖とされる孔子の人生について再確認することで、人間孔子を浮き彫りにし、その主な思想として「仁」と「礼」とに焦点を当てて、「仁」の内容、「仁」と「礼」の関係について考察を深めます。</p> <p><u>(2)孟子と荀子の倫理思想</u> この授業では、中国の戦国時代の思想家、孟子と荀子の倫理思想について考えます。特に孟子と荀子の性説の違いについて理解することを目標とします。</p>
5	9月27日(金) 19:00～ 20:30	ジェシカ・タインズ (認知言語学・社会言語学)	<p><u>(1)言語とイデオロギー 1（ことばと当たり前）</u> この講義では、社会言語学の基礎的な概念を紹介しながら、ことばと社会の密接な関係について考えていきます。社会に生きる言語話者の期待や当たり前に意識を向け、語用論、認知言語学、社会言語学の理論に触れながら、ことばの効果や言外の意味に焦点を当てます。言語話者が発することばは単なる表面的なものではなく、社会と相互作用する関係にあります。したがって、現実世界に影響を及ぼす力を有していると考えられます。また、ジェンダーや他の上下関係を維持する可能性だけでなく、革命をもたらす可能性についても考えていきます。</p> <p><u>(2)言語とイデオロギー 2（文化的背景とともに変化することば）</u> 同じ内容を伝えるにしても、文化的背景の異なることばで伝えるためには、単語を置き換えるだけではうまくいかないことがあります。言語は静的なものではなく、時代と共に変化している生きたものとして考察します。前回の授業の続きとして、文化の違いや多様性について考えていきます。メディアからの具体例を取り入れながら、翻訳によって生じるミスコミュニケーションや社会とともに変化することばの使用について検討します。</p>

	対面orオンライン日時	担当教員	オンデマンド教材の内容
6	10月26日(土) 10:00～ 11:30	中石 ゆうこ (日本語教育学)	<p>(1) <u>外国語として見る日本語文法1 (指示表現)</u> この授業では指示表現(こそあど言葉)について日本語学習者の質問やエラー(誤用)からスタートして、指示表現に関する日本語文法の規則について明らかにします。日本語学習者の発話「?私の好きな先生は文学の先生です。あの人は女性です。」、この場合、正しいのは「その人」です。しかし、それはなぜでしょうか。日本語母語話者は「これ」「それ」「あれ」をどのような規則で使い分けているのか解説します。</p> <p>(2) <u>外国語として見る日本語文法2 (アスペクト)</u> この授業ではアスペクト(とくに「～ている」)について取り上げます。「～ている」は英語では「～ing」だと習います。例えば「今、私はメールを書いています。」は、「I am writing an email now.」です。しかし、「正解はここに書いています。」は、「The answer is writing here.」ではありません。それはなぜでしょうか。日本語の「～ている」の用法について解説します。</p>
7	11月30日(土) 10:00～ 11:30	草薙 邦広 (英語学・英語教育学)	<p>(1) <u>学習英文法と現代記述文法の往還</u> この授業では、英語における文法指導、特に「文法説明」として知られる教師による明示的な規則の提示、さらに特定の文法事項に関する評価の方法に焦点を当てます。一般に日本の中学校・高等学校にて扱われる文法体系(学習英文法)は、現代における科学的な研究成果としての記述文法と一致しない部分が往々にしてあります。しかし学習文法が必ずしも不正確であるといったことはなく、教師には、目的に応じて複眼的に現代記述文法との間を往還し、生徒や教材に最適化された文法の仕立て(テーラリング)が必要になります。たとえば、「be動詞の品詞はなにか」、「代名詞は名詞の一部か」、「英語の時制は何種類か」といった事例に触れながら、よりよい文法指導について見解を深めたいと思います。</p> <p>(2) <u>科学的な英語教育は成立するか (第二言語習得研究とエビデンスに基づく英語教育)</u> 日本の英語教育研究は、特に90年代以降、欧米にて隆盛となった応用言語学、特に第二言語習得研究(SLA)の知見を取り入れるようになりました。このような学問上の動きは、教育現場、または学校外での教育市場にも大きな波紋を呼び、「科学的な英語教育」、特に「科学的に効果が実証された指導法」といった観点が重要視されるようになりました。しかし、果たしてこのような一種のムーブメントは、日本の英語教育実践を実際に大きく変えたといえるでしょうか。長年培われた教師の経験、または言語化できない臨床知などを置き換えるものでしょうか。また、近年に入り、医療や政策決定の分野で重要視される「エビデンス」といった観点も注目を浴びています。これらの、一見客観的で現代的な研究アプローチについて、教育現場の視点から再度問い直します。</p>
8	12月20日(金) 19:00～ 20:30	栗原 武士 (米文学・異文化理解)	<p>(1) <u>文化を探求する：現代アメリカ文学研究概説</u> この授業では、現代アメリカ文学を研究するとはどういうことかを、個別具体的なケースをもとに概説します。とりわけ、1960年代以降の多文化主義の広がりによって、文学研究においてもテーマの選択や研究の方向性などにどのような変化が起こったのかを中心に解説し、現代日本における文化研究・探求の意義についてお話しします。</p> <p>(2) <u>アメリカ文学における文化的越境</u> この授業では(1)での内容を踏まえ、現代アメリカ文学において人種・ジェンダー・階級などの文化的境界線がどのように描かれているか、そしてそのような境界線について文学作品がどのような政治的なメッセージを発信しているかを、具体的な作品の読解を通して説明します。総合的な探求の時間などで応用可能な、映画も含めた物語分析の手法も紹介します。</p>
9	2月22日(土) 10:00～ 11:30	植村 広美 (比較教育学)	<p>(1) <u>教育制度の各国比較</u> この授業では教育システムの編成原理について理解し、それが各国の学校体系や選抜様式にどのように反映されているのかという視点から学校体系を3類型(複線型・分岐型・単線型)に大別した考察を行う。また、国別・事項別の比較を通じて世界の学校体系・教育制度にみられる一定の動向を発見し、理論的・概念的に類型化することも試みたい。</p> <p>(2) <u>近代日本の公教育</u> 1872年の学制の公布からスタートした日本の近代的教育の発展について、学校体系の変遷の観点から考察を行う。とりわけ、近年にみられる教育の公共性と市場化、学校から職業への移行問題や少子化問題に応じる教育制度改革の諸相を考察する。</p>
10	3月22日(土) 10:00～ 11:30	向居 暁 (認知心理学)	<p>(1) <u>心理学研究法とクリティカル・シンキング</u> 心理学は、日常生活の疑問に科学的方法論を用いて直接アプローチできる学問です。実は、心理学の研究知見だけでなく、心理学の研究方法を理解することもまた、複雑な人間の心理活動が関与する教育活動においては非常に有用です。本講では、心理学研究において重要となるクリティカル・シンキング、特に、因果関係の推論に関して、日常の事例を通して理解を深めながら、因果関係の推論において犯しやすい誤りや、より適切な結論を下すための方法について学びます。</p> <p>(2) <u>教授法と学習環境デザインのための認知心理学</u> 認知心理学による人間の学習についての心理学的メカニズムに関する膨大な研究知見は教育活動で十分に活かされていません。本講では、認知心理学を教育実践に利用可能な方法で統合する試みとして「学習原理」を紹介しながら、学習者が、学習材料を深く理解し、将来的に利用可能なかたちで長期間にわたって記憶するために効果的な教授・学習方法について学びます。</p>